

2024 年度損害保険講座募集要項

※2024 年度も通学コースは休止、Web コースのみ開講いたします。

ワンランクアップを目指す皆様へ

上級講座のご案内

公益財団法人 損害保険事業総合研究所

上級講座は、入社年次等を問わず一定以上の実務経験のある社員の方々の実力アップを目指す講座です。

「学び」はいつでも未来につながる投資です。実務経験を積んだ今だからこそ、「わかること」、「実務に応用できること」など様々な発見があるはずです。

変動著しい予測不能なこれからの時代に、将来にわたって活躍していくためにも必要な知識・スキルに磨きをかけ、着実にステップアップを図っていきましょう。

1. カリキュラムの特色

○体系的に学習

上級講座は、ビジネスの現場で役立つ論理思考力や問題解決力を高める知識を体系的に学習していくプログラムとなっています。複数の科目を関連付けながら学習することで、より効果的に知識・スキルを習得していくことができます。

○カリキュラムを自分でプランニング

10 科目のラインナップの中から、強化したいスキル、不足していると思われる知識の科目を自由に選択し、自分にあった学習プログラムをご自身で組んで受講できます。

○ケーススタディで実践的に学習

ケーススタディを随所に取り入れた講義は、単に聞きっぱなしで終わるのではなく、学んだ知識をしっかりと身に着け、実務にどう活かすかを考えるカリキュラムとなっています。

○オンデマンド配信講座

Web 配信期間は約 1 ヶ月。忙しい時期でも、スケジュールを調整しながら受講することができます。

2. 開講科目（全 10 科目）

| | |
|------|---|
| 保険引受 | <ul style="list-style-type: none">アンダーライティング基礎知識と料率論（全 2 回）アンダーライティング財産保険（全 3 回）アンダーライティング賠償責任保険（全 3 回） |
| 損害査定 | <ul style="list-style-type: none">モラルリスクと損害査定（全 2 回）重要判例から学ぶ保険法と保険業法（全 2 回） |
| 保険経営 | <ul style="list-style-type: none">再保険（全 2 回）実践的損保 ERM（全 2 回）保険マーケティングの初歩（数理入門を含む）（全 3 回）実務に役立つ財務諸表の読み方（全 2 回）保険経営のための損害保険会計と経営分析（全 2 回） 損害保険会計入門パート付（選択制） |

3. 受講される方の目安

- 損保講座のうち本科講座、ベーシック講座等を修了されている方。あるいは同等の保険の基礎体系を一定程度理解している方
- 一定の実務経験のある担当者クラス以上の方

4. 受講の流れ

- 受講申し込み
- 学習サイトに個人ページを開設
 - 6月上旬に ID を送付しますので、学習サイトにログインする手続きをしてください。**
※メール受信の設定により学習サイトへの登録案内のメールが受信できない場合があります。
6月4日までにメールが受信されていない場合については、損保総研までお問い合わせください。
- Web 講義受講
 - 学習サイトでは、開講スケジュール、Web 講義、教材、自習課題等を提供します。
- 科目修了認定テスト
 - 各期末に科目毎修了認定テストを Web にて実施します。

5. 修了認定

講義終了後に実施する、修了認定テストを受験され修了基準（合格点）を満たした方には、科目単位で修了認定証をオンライン発行いたします。

※試験は合否の結果のみ発表します。

6. 受講料および教材費

- (1) 受講料（税込）：各科目の受講料は講義回数（2～3回）によって変わります。下表を参考にしてください。なお、お支払いについては、前期分10月中旬、後期分2月中旬頃にご請求書を送付させていただきます。（銀行振込とさせていただきます）

（以下記載金額は消費税10%込）

| 講義回数 | 当研究所の賛助会社の方 | | | 一般の方 | | |
|--------|-------------|--------|--------|-------|--------|--------|
| | 1回 | 2回 | 3回 | 1回 | 2回 | 3回 |
| 通学コース | 5,830 | 11,660 | 17,490 | 7,370 | 14,740 | 22,110 |
| Webコース | 5,500 | 11,000 | 16,500 | 7,040 | 14,080 | 21,120 |

*2024年度も通学コースは休止いたします。

- (2) テキスト代（税込・予価）

下記の科目はテキストが必要です。（テキストは適宜追加になることもあります。）

○アンダーライティング3科目

・『アンダーライティングⅠ＆Ⅱ』（損保総研）5,280円（22年5月刊行）

○再保険

・『再保険』2024年版（損保総研）2,420円（24年11月刊行予定・予価）

○保険経営のための損害保険会計

・『損害保険会計と決算』2024年版（損保総研）3,300円（11月刊行予定・予価）

- (3) 損害保険会計入門パート受講料・・・一律3,300円

- ・「保険経営のための損害保険会計と経営分析」を受講される方で、希望者の方が選択受講できます。単体でのお申し込みはできませんのでお含みおきください。
- ・このコンテンツは、本科講座「損害保険会計」のWeb講義と同じ内容になります。

7. お申し込みについて

1科目からお申込みいただけます。

*上級講座は、複数科目を横断的に学習することで効果が上がるようにプログラムされています。効果的に、また効率的に学習するために、関連した複数科目を同時に受講されることをお勧めいたします。

8. 募集締切日

○締切日：5月22日（水） ※後期5科目は8月下旬にも再募集いたします。

- ・研修担当課にておとりまとめの上、専用申込書に必要事項を入力の上、下記アドレス宛にご送信ください。

・申込書送信先アドレス：koza-entry@sonposoken.or.jp

*申込書のフォーマットが一部変更になっております。必ず2024年度の申込書をご利用ください。

9. 開講スケジュール

- ・ 視聴期間：約 1 ヶ月
- ・ 各科目の概要は別紙をご参照ください。

※配信日は収録状況によって変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

| 前期 5 科目 | 回数 | 配信開始予定日 |
|---------------------|----|---------|
| アンダーライティング基礎知識と料率論 | 2回 | 6月5日～ |
| アンダーライティング財産保険 | 3回 | 6月26日～ |
| アンダーライティング賠償責任保険 | 3回 | 7月24日～ |
| 実践的損保 ERM | 2回 | 8月21日～ |
| 実務に役立つ財務諸表の読み方 | 2回 | 9月4日～ |
| 10月下旬 科目修了認定テスト実施予定 | | |

| 後期 5 科目 | 回数 | 配信開始予定日 |
|-------------------------|----|---------|
| 保険マーケティングの初歩（数理入門を含む） | 3回 | 10月9日～ |
| モラルリスクと損害査定 | 2回 | 10月30日～ |
| 重要判例から学ぶ保険法と保険業法 | 2回 | 11月20日～ |
| 再保険 | 2回 | 12月4日～ |
| 保険経営のための損害保険会計 | 2回 | 1月8日～ |
| 損害保険会計入門パート ※前頁 6-(3)参照 | | 12月中 |
| 2月中旬～下旬 科目修了認定テスト実施予定 | | |

※2023年度より後期科目【重要判例から学ぶ保険法と保険業法】と【再保険】の配信順が入れ替わっております。予めご了承ください。

CPCU / CII 受験優遇措置について

CPCU、CII は、損害保険業界の専門資格の最高峰に位置付けられている国際的な保険資格です。上級講座を一定科目数修了した場合、下記の受験優遇措置を受けられます。

- ・ CPCU:上級講座を 8 科目以上修了・・・「Elective」試験免除
- ・ CII:上級講座を 10 科目以上修了・・・「Diploma 資格」のうち 20 単位として認定

詳しくは、損保総研のホームページをご確認ください。

<https://www.sonposoken.or.jp/inquiry/cpcu-2>

- * CPCU (Chartered Property and Casualty Underwriter) 米国損害保険業界の専門資格 (認定損害保険士)
- * CII (Chartered Insurance Institute) 英国の保険資格運営団体

■ 前期 5 科目講座概要 ■

(講義内容・講師は予定のため、変更となる場合があります。)

1. アンダーライティング基礎知識と料率論

講師：損害保険ジャパン株式会社 コマーシャルビジネス業務部
課長代理 有末 宏 氏

■ 学習の目標

アンダーライティングのポイントである「リスク評価」と「料率算出」の基本的な概念を学習し、基礎的な料率を算出できるようになることで、社内外の折衝に自信をもって臨めるようになることを目標とします。

■ 講座概要

損害保険会社にとってアンダーライティングは、最も重要な業務の一つであり、その基本的な知識は、業務部門担当者はもちろん、営業担当者にも強く求められます。

本講座では、アンダーライティングの概念と保険の社会的役割について学習し、次に、適正な保険料率を算出するための基礎的な考え方について、学んでいただきます。料率算出の概念を十分に理解した上で、損害保険事業の特徴を確認し、市場において保険会社は契約者に対し、どのような取引をすべきかを考察していきます。

また講義では、ケーススタディを活用し実際に課題を考えることで、引き受けに必要な実践的な判断力を養っていただきます。

■ 第 1 回 アンダーライティング概論

I. アンダーライティング概論

1. アンダーライティングとは
2. アカウント・アンダーライティング

II. 料率算出概論

1. 保険の役割（リスクの移転機能・分散機能）
2. 保険料の構成要素
3. 損害率の見方
4. 料率算出の基礎

ケーススタディ

■ 第 2 回 料率算出の概論

II. 料率算出概論

5. 料率算出の修正要素
 - i キャットロス
 - ii データ量
 - iii トレンドファクター
 - iv ロス・ディベロップメントファクター
- まとめ

ケーススタディ

■ 前期 5 科目講座概要 ■

(講義内容・講師は予定のため、変更となる場合があります。)

2. アンダーライティング財産保険

講師：東京海上日動火災保険株式会社 火災・企業新種業務部 火災第二グループ
課長代理 宇佐美 嘉彬 氏

■ 学習の目標

財産リスク・休業リスクに関するアンダーライティングの基礎的な考え方を理解するとともに、財産保険を引き受ける際のチェックポイント・リスクマネジメント評価手法を学ぶことで、現場や日常業務での応用力を身に付けることを目指します。

■ 講座概要

財産保険のアンダーライティングにあたっては、「補償する危険・リスクのイメージを持ち、経験・知識に基づく合理的なリスク評価を行うこと」が求められます。

この講義では、財産リスクを「火災リスク」「自然災害リスク」「その他リスク（盗難等）」「利益減少リスク」に分解し、それぞれのリスクの特徴・アンダーライティングの基礎的な考え方を体系立てて解説します。

また、ケーススタディを交えながら具体的なリスクマネジメント手法を学び、実務に生かせるアンダーライティングスキルを養っていきます。

■ 第1回 財産リスクアンダーライティング

- | | |
|----------------|-----------------------------------|
| 1. 財産リスクとは | 2. 財産リスクのアンダーライティング |
| (1) 火災リスクの特徴 | (1) 財産リスクに共通するアンダーライティングのチェックポイント |
| (2) 自然災害リスクの特徴 | (2) リスクごとのアンダーライティングのチェックポイント |
| (3) その他リスクの特徴 | 3. ケーススタディ（課題） |

■ 第2回 ケーススタディおよび財産保険商品のポイント

- | | |
|------------------------|----------------------------------|
| 1. ケーススタディ（課題）の解説 | 3. 休業リスクを補償する保険商品のポイント |
| 2. 財産保険商品のポイント | (1) 保険金額の設定方法（および保険金の算出） |
| (1) 財産保険商品の種類 | (2) 補償内容等（アンダーライティング上、特に注意すべき事項） |
| (2) オールリスク型約款商品における注意点 | 4. ケーススタディ（課題） |

■ 第3回 リスクマネジメント

1. ケーススタディ（課題）の解説
2. 財産保険を取りまく最近のトピックス
3. リスクマネジメントと財産リスクの確認（分析）手法
4. ロスプリベンション

■ 前期 5 科目講座概要 ■

(講義内容・講師は予定のため、変更となる場合があります。)

3. アンダーライティング賠償責任保険

講師：三井住友海上火災保険株式会社 新種保険部 責任保険チーム
課長代理 松浦 輝 氏

■ 学習の目標

賠償責任保険は、そのリスク評価の難しさが特徴的です。本講座では賠償責任リスクに対する基礎的かつ本質的なアンダーライティングのノウハウを身に付け、さらに実務に活かしていただくことを学習の目標とします。

■ 講座概要

賠償責任保険の基本（法律との関係、機能、約款、料率、対象リスク等）について、丁寧に説明することにより、賠償責任保険の本質に迫ります。

基本を理解したうえで、賠償責任保険の引受対象となる各種リスクを取り上げ、リスク評価のポイント、引受条件の設定および料率算定の手法などを具体的に学んでいただきます。

また、実務への展開として、グローバル企業に対する具体的提案、賠償責任保険にまつわる様々な事故における有無責判断、最適な支払限度額の設定方法など、多数のケーススタディを行い、実践的な解説を行っていきます。

■ 講義項目（全3回）

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1. 賠償責任リスクの概要 | 3. 賠償責任リスクのアンダーライティング |
| (1) 「賠償責任保険」とは | グ |
| (2) 法律上の責任 | (1) 約款構成の解説 |
| (3) 不法行為責任と債務不履行責任 | (2) リスクと対応する商品 |
| | (3) ビジネスリスク |
| 2. 賠償責任リスクの特徴 | 4. アンダーライティングによる保険条件の設定 |
| (1) 賠償責任保険の機能 | (1) 引受プロセス |
| (2) 賠償責任リスクの特徴 | (2) 予想最大損害額と支払限度額の設定 |
| (3) 賠償責任保険とリスクの分類 | (3) 免責条件の設定 |
| (4) リスクの将来性 | |
| (5) 一般的な免責事由 | 5. 料率算出の手法（保険料） |
| (6) 事故発生ベースと損害賠償請求ベース | (1) 料率算出の仕組み |
| | (2) 特殊リスクの料率算出 |

※各々のテーマごとに、ケーススタディを多数挟みながら講義をすすめます。

■ 前期 5 科目講座概要 ■

(講義内容・講師は予定のため、変更となる場合があります。)

4. 実践的損保 ERM

講師：東京海上ホールディングス リスク管理部グローバルリスク管理グループ
アシスタントマネジャー 吉田 森生 氏

■ 学習の目標

1. 損保経営の基軸となる ERM の考え方の基礎理論の学習を通じて、ERM の重要性を理解できるようになる。
2. 「資本」「リスク」「利益」の相関関係を理解し、日常業務を ERM の視点で考えることの出来る素養を身につける。

■ 講座概要

保険会社も含めた企業の内部統制が強化される流れの中で、ERM は経営の基軸として注目度がますます高まっています。

この講義では、保険の引受や保険料率設定を考える際に、何故資本とリスクが関係するのか、何故保険会社にとって ERM が重要となっているのか、そして ERM を受講者の皆様が所属部門の事業計画策定及び日常業務における適切なアンダーライティングや引受戦略にどのように活用していくのかを、ケーススタディ等を交えて解説していきます。

■ 第 1 回講義

0. イントロダクション ERM の全体像概観
1. ERM の基本概念 ～「資本」「リスク」「リターン」
 - (1) ケーススタディ
 - (2) バランスシートから見る資本とリスクの関係
 - (3) 資本コストとリターン
2. リスクについて
 - (1) 保険会社が抱えるリスク
 - (2) リスク定量化に係る基礎知識
 - (3) 代表的なリスクの特性・定量化手法

■ 第 2 回講義

- | | |
|--|--|
| 3. ERM に関するトピック <ul style="list-style-type: none">・ ERM の全体像・ 国際的規制の動向<ul style="list-style-type: none">・ ソルベンシー II と ICS・ 格付け会社・ 自然災害リスク | 4. ERM を活用した引受戦略 <ul style="list-style-type: none">・ ケーススタディ・ まとめ |
|--|--|

■ 前期 5 科目講座概要 ■

(講義内容・講師は予定のため、変更となる場合があります。)

5. 実務に役立つ財務諸表の読み方

講師：東京海上ホールディングス 投資運用部・戦略投融資グループ
アシスタントマネージャー 原田 裕太 氏

■ 学習の目標

本講座は、一般事業会社の財務諸表を読み解くポイントについて理解することで、さらに保険実務へ活用できるようになることを目標とします。

■ 講座の概要

財務諸表について一定の知識を持っていても、知識を実務に活用できていないと感じている方は少なくないのではないのでしょうか？

企業の経営実態を財務諸表からの確に判断できるスキルを身に付けることは、単に利益保険や取引信用保険などの営業に留まらず、中小企業との取引を深めたいと考えている営業部門の社員の方はもちろん、損害、業務などの部門の方々にとっても極めて重要です。

本講座では、基礎を確認しながら、財務諸表を読み解くポイントと保険実務への活用について、わかりやすく解説します。

【おもな講義ポイント】

- 財務諸表の種類（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書等）
- 分析とは・・・
- 経営分析の指標について
- 会計のルールを規定する法律
- 決算短信を読み解く
- 取引開始を考えている会社の分析をする場合のポイント（落とし穴）



■ 後期 5 科目講座概要 ■

6. 保険マーケティングの初歩

早稲田大学商学部准教授
元東京海上ホールディングス

星野 明雄 氏

【学習の目標と講義の概要】

保険数理は従来、保険料や責任準備金など、コスト側の分析に特化していました。保険自由化から20年、多くの経営課題で、バリュー側の数理が重要になっています。たとえば、新商品の販売量予測。補償やサービスの価値の定量評価。これらを応用した商品設計の最適化。その他、ブランド戦略など幾多の分野で、顧客価値（バリュー）に立脚した経営が求められています。



保険料は、レーティングからプライシングへ。経営は、コストベースからバリューベースへ。本講座は、こうした時代の変化に前向きに取り組むための基礎および応用を伝授します。

人身傷害補償保険をはじめ多くの商品を開発した講師が経験を基に、事例を含む実践的な講義を行います。経営企画、商品・サービスの開発、営業推進、損益分析などをご担当される方、マーケティングを理論的に学びたいとお考えの方に必聴の講座です。

7. モラルリスクと損害査定

講師：弁護士／調査会社

【学習の目標と講義の概要】

保険会社は善意の契約者のために迅速かつ適正な保険金支払いを日々行う一方で、長年に渡り保険を悪用して不正に保険金を取得しようとするモラルリスクの排除に腐心してきました。本講座では、業界に精通した弁護士と、モラルリスクの最前線で対峙している調査会社の二つの視点から、モラルリスクにどう対処すべきかについて学習します。

第1回講義 講師：シリウス総合法律事務所 弁護士 廣瀬 健太郎 先生

いわゆるモラルリスク事案について、実際に訴訟等でモラルリスク事案を担当している弁護士の目からみた保険会社担当者の心構え、事案への対応方法などを、偽装事故、水増し請求等の実際の事例を踏まえて解説します。

第2回講義 講師：株式会社損害保険リサーチ 杉山 真一 氏

本講座においては、モラル事案に対峙するための重要項目を学習していただき、近年、巧妙化・多様化傾向にある実事例を題材とした実務上の対応策などを習得することにより、これまで以上に適切な対応・判断ができるようになることを目指します。

8. 重要判例から学ぶ保険法と保険業法

元福岡大学法科大学院教授 佐野 誠 先生

【学習の目標】

「保険に関する判例や法律は大事だけど自分だけで勉強するのは難しいなあ」と思うことはありませんか？この講座では、営業部門や損害部門などの実務に役立つよう、損害保険の契約や事故に関する重要な判例をわかりやすく解説します。そして、判例の考察を通して保険法や保険業法等への理解を深めることを目指します。

【講座の概要】

損害保険の実務では、損害部門のみならず営業部門においても保険法、保険業法、自賠法などの法律の理解が欠かせません。そして、その理解を深めるためには、具体的な事例における裁判所の判断である判例にあたるのが重要です。

損保講座の本科講座では、保険契約法と保険業法について学びましたが、この講座では、それを受けて、損害保険契約に関する重要な判例をとりあげてその争点や判旨、関連法規との関係、さらには実務への影響をわかりやすく解説します。また、現在注目されている**最高裁令和4年3月24日判決（人傷一括払いについて）**も講義内で解説をする予定です。この講座で、重要判例や保険に関する法律規定をしっかりと勉強してみたいと思う方は、是非一緒に学習していきましょう。

【学習の目標】

再保険の種類や、基本的な仕組みに関する知識を習得し、再保険の一般的な利用形態が理解できるようにすることを目標とします。

また、再保険マーケットの概要および直近の再保険マーケットの動向の総合的な理解を目指します。

【講義の概要】

再保険の基本的な仕組みや再保険の目的・機能について、ケーススタディを通じて学習をすすめていきます。また、保険会社における「保有」の考え方や、再保険の各形態の長所・短所を整理し、種目特性を踏まえた再保険カバーのコーディネーション実務・運用を理解していきます。

その他、マーケット規模やプレーヤーといった再保険マーケットの概要を俯瞰しながら、直近のマーケット動向について概説します。

10. 保険経営のための損害保険会計と経営分析

講師：公認会計士／証券アナリスト

【学習の目標】

本講座では、損害保険グループのディスクロース資料を利用しながら、損害保険会社の「財務諸表の理解」と「経営分析作業」に必要な知識を習得することを目標とします。

【講義の概要】

第1回講義：EY新日本監査法人 公認会計士 小林 弘幸 先生

この講義では、損害保険会計の体系や財務諸表の特徴を概括的に説明するとともに、損害保険会社が実際に公表している決算説明資料を用いて、経営分析指標の見方・考え方等を解説します。また、最近のテーマであるIFRS第17号（保険契約）についても概要を説明します。

第2回：シティグループ証券 証券アナリスト 丹羽 孝一 氏

日本の損害保険グループの事業活動は多角化、高度化しています。日本国内での生命保険事業に加え、海外の保険事業、さらには資産運用事業や一般事業分野へと事業領域を拡大しています。このように、進化する企業活動の様子を記したものがディスクロース資料ですが、比較的経験の浅い学習者にとって、ディスクロース資料を読み解く作業は難易度が高くなってきていると思います。

本講座では日本の損害保険グループの現状や課題、および将来展望を分析する目的で、実際の市場参加者のディスクロース資料の利用方法を解説します。

■ 損害保険会計入門パート（保険経営を受講される方で任意で受講いただけます）

「専門的な内容をいきなり学習するのはちょっと・・・」と、ご心配な方も、Web講義で基礎からじっくり学習することができます。ご自身のレベルに合わせて選択してください。

■ コンテンツは、本科講座のWeb講義と同じ内容になります。

I. 企業会計と損害保険会計

1. 企業会計とは
2. 企業会計の種類・法規制
3. 財務会計の基本ルール
4. 損害保険会計の特色
5. 複式簿記の仕組み・代表的な財務諸表
6. 仕訳

II. 損害保険事業の損益計算

1. 損害保険事業の損益計算の全体像
2. 保険料<収益>
3. 保険金<費用>
4. 経費関係
5. 責任準備金
6. 資産運用関係
7. その他

III. 損害保険事業の経営指標

IV. その他トピックス